

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) 日本エクスラン工業株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 530-0004 大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号	
本票作成	部署名：日本エクスラン工業株式会社 西大寺工場 工務部				
主たる業種	分類コード	11	業種名：繊維工業		
事業の概要	アクリル繊維生産量：18,000t/年 従業員数：300名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	西大寺工場		岡山市東区金岡東町三丁目 3 番 1 号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度 ( 5 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input checked="" type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 5.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input type="checkbox"/> 原単位基準						○	
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 元 年度)			目標年度 (令和 6 年度)					
	42,704 t CO <sub>2</sub>			40,568 t CO <sub>2</sub>					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和 元 年度) の排出量					
	①	西大寺工場		42,704 t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容		原単位当たり排出量	
			基準年度	目標年度
			CO <sub>2</sub> / ( )	CO <sub>2</sub> / ( )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 元 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

基幹事業であるANS製品は、ここ数年で大量生産していたレギュラー品が大幅に減少し、特化品生産へとシフトしており、年度毎でその生産状況が大きく異なってくるため、排出量の原単位比較は適切な評価ができないと判断した。この状況は今後も加速していくことが予測されるため、事業活動を行う上で排出される総量を削減していくことを目標として設定した。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

- ①省エネ対策委員会：工場長を委員長、各部長を委員とする工場全体会議（年2回開催）
- ②工場長の現場点検：副工場長、環境、工務部長も同行し安全の他、省エネについても点検する（毎週）
- ③コスト改善委員会：社長出席のコスト低減対策会議。その中で省エネ取組状況や実績の把握を行う（毎月）
- ④環境保全委員会：各部の環境改善目標に対する実績把握等を行う、工場長・部長出席の会議（毎月）

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
西大寺工場	(1) 2015年度 ANS設備 溶剤精製増強 (削減効果：263t-CO2) ドレン回収 (削減効果：133t-CO2) 熱交換効率向上 (削減効果：430t-CO2)
	(2) 2016年度 ANS設備 排熱回収 (削減効果：435t-CO2)
	(3) 2018年度 ANS設備 適正効率化 (削減効果：364t-CO2) 発電所 ガスコージェネレーションシステム導入 (削減効果：41,165t-CO2)
	(4) 2019年度 ANS設備 適容量化 (削減効果：188t-CO2) 圧空設備 最適化 (削減効果：233t-CO2)

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
西大寺工場	(1) 2020年度 蒸気主管の放熱ロス防止 (削減効果：81t-CO2) 変圧器更新 (削減効果：10t-CO2)
	(2) 2021年度 水源地ポンプINV化 (削減効果：131t-CO2)
	(3) 2022年度 高効率冷凍機更新 (削減効果：31t-CO2) ※削減効果は予測値
	(4) その他 送液ポンプ・ファンの能力適正化及び生産工程の条件見直しを含んだ効率化
	上記に加えて、継続して新規案件抽出・検討を行い、適時実施していく。

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

- (1) 空調用電力・蒸気節減のため、クールビズ・ウォームビズ運動推進
- (2) 社内環境展を（1回/年）実施、省エネと環境負荷低減を従業員にPR
- (3) 2017年 2月 産業廃棄物焼却設備 老朽化により停止
- (4) 2017年 2月 ANS生産系列5→4系列
- (5) 2017年10月 ANS生産系列4→3系列
- (6) 2019年 1月 発電設備へガスコージェネレーションシステム導入